

第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会
第 5 回議事録（概要版）

開催日程：2019 年 12 月 23 日（月）15：00～17：00

場所：日本学術会議 2 階大会議室

出席者：小松、寶金、井上、川口、正木、永瀬、西村（議事録）

欠席：岩崎

（順不同、敬称略）

資料

- ① 第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会ケアサイエンス分科会第 4 回議事録（概要版）
- ② 第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会ケアサイエンス分科会第 4 回議事録（詳細版）
- ③ 提言（案）

【看護学分科会：議題】

（1）健康・生活科学委員会の報告（小松委員長）

委員会からの報告は特別にはない。

（2）大型研究計画に関するマスタープランについて（小松委員長）

生活・科学委員会などの先生方からご意見を頂き、3 月末に提出後、9 月にヒアリングを受け、その結果は 1 月に分かる予定である。たくさんのプランが提案されていたが、その中で、他のプランとは変わったイノベーションについて発表できて意義があった。

（3）提言について（小松委員長）

資料 4 をもとに、小松委員長から提言（案）の詳細が説明された。提言の構成は前回の会議で確認をしており、それをもとに下案を作成した。2 つのテーマ案は、いずれもケアサイエンスの基盤形成を行うことで、未来社会の創造に繋がることを表現している。

本説明を受け、以下の議論がなされた。

（ケアサイエンスの学問の特徴）

- ・ケアサイエンスは総合的な学問であり、あらゆる学問領域、あらゆる学問体系にかかわっていることを示す必要がある。
- ・日本は少子高齢化という課題をもっており、それがケアサイエンスを必要とした。ケアサイエンスは科学の生まれ方として歴史的な意義がある。
- ・国際的な位置づけを示したうえで、日本のもつ課題に対して、ケアサイエンスの必要性を述べる。

（テーマについて）

- ・1 つのテーマ案にあるように「人間中心社会」とせずに、「持続可能な社会」あるいは、

「ケアサイエンスの基盤形成と未来社会の創造」のみとしたほうが良い。

(ケアサイエンスの知の体系)

- ・ケアサイエンスの核を「相互補完的關係」にした点が、探究する方向性を明示している。
- ・知の体系へは、社会保障制度・政策、技術・テクノロジーを使った介護、未来社会を作る子どもたちへの教育、初等・中等教育におけるいじめ等の具体的問題などを加えたほうが良い。
- ・「(1) ケアの実社会での発展」ケアの定義に、負の面(裏の目)も加えると良い。
- ・図2、知の体系の3次元の上下を表す言葉を議論した方がいい。
- ・岩崎委員には、福祉の視点から不足している点がないかを伺う。

(ケアサイエンスの社会実装)

- ・サイバー空間におけるケア共同社会については、川口委員が担当する。
- ・地域社会のコミュニティの中で、どのようにインセンティブを付けると。限られた財源の中でケアが提供されていくのかを考える必要がある。
- ・1月初旬に再度、分科会で確認し、1月末には提出する予定とする。

次回は、2月10日(月)13:00~15:00

- ・ケアサイエンスを学術として継続する方法を検討する。